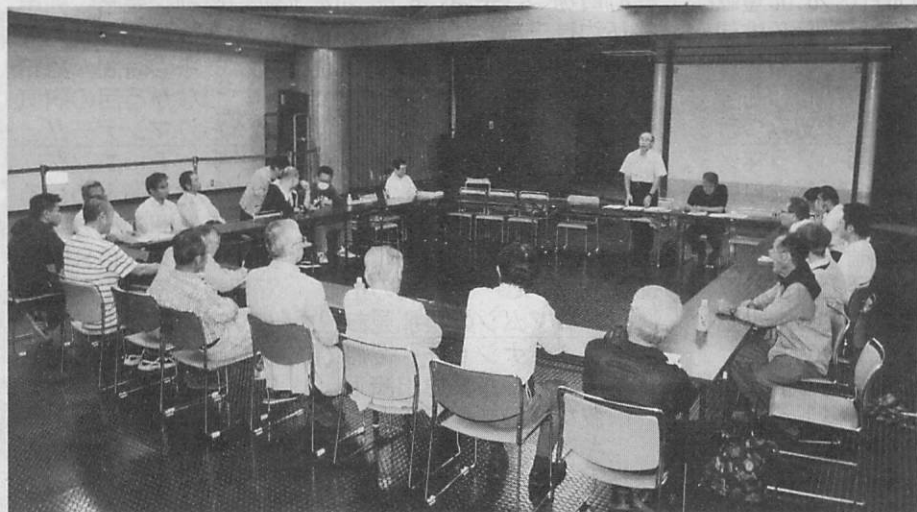


伊勢病院建て替え計画の見直しを求める市民会議の設立式＝伊勢市岩淵で

## 伊勢病院建て替え計画



この日は、市内で在宅医療の開業医をしている遠藤太久郎医師(左)も駆け付け、参加者に建設計画の経緯や問題点を説明。「市はこういう病院を造るのか地元の医師にも説明してこなかった」と強調した。

【伊勢】建設費の高騰などが問題となっている市立伊勢総合病院(伊勢市楠部町)の建て替えを巡り、元市議二人が七日、計画の見直しを求める市民会議を設立し、市内の開業医を含む約三十人が参加した。十一日に鈴木健一市長と議会に要望書を提出する。

同日夜、市内で設立式があり、呼び掛け人の一人で元市議の大川好亮さん(左)と同市二俣川が代表に選ばれた。

「ベッド数多すぎ  
ヘリポート不要」

## 開業医ら30人参加

遠藤医師は「病院を新しくするだけでは駄目。地域が必要としている病院機能を考えていない」と指摘。先月七日、市外の在宅医師

参加者からは事業費が約二百億円となるのを踏まえ「ベッド数が多すぎる。ヘリポートもいらぬし、手術室も増やす必要はない」と

# 「見直しを」市民会議設立

と共に鈴木市長と面談し、計画の見直しを求めたことを明らかにした。

同病院の建設計画を巡っては、議会などが建設費の高騰や約58%しかない病床利用率の低迷、必要性が不透明な屋上ヘリポートの建設、医師数の減少に反した手術室の増室などが問題視している。

などの批判が相次いだ。同病院の建設計画は、関連の補正予算案が十二日の市議会本会議で可決されれば今月中にも本体工事の着

工が始まる方針。大川さんは要望が受け入れられず、工事が始まった後も活動は続けていくという。

(倉持亮)